

『「広々とした生命科学」 ～ 先見性と器量の育成 ～』

2023年1月12日 ルーテル学院大学(東京都三鷹市)の授業『現代生命科学Ⅰ(13:20～15:00) & 現代生命科学Ⅱ(15:10～16:50)』に赴いた。テキスト『カラーで学べる病理学』(NOUVEILLE HIROKAWA)を用いて、今回『消化器系 & 内分泌器系 & 造血器系』の箇所を音読しながら進めた。

**【到達目標: 「現代生命科学」目的は、「病気」の根幹を追求し、俯瞰的に物事を総合的に見られるようにすることを目的とする。**

1. 世界の動向を見極めつつ歴史を通して今を見通せるようになる。
2. 俯瞰的に「生命」の理を理解し「理念を持って現実に向かい、現実の中に理念」を問う人材となる。
3. 複眼の思考を持ち、視野狭窄にならず、教養を深め、時代を読む「具眼の士」の種蒔く人材となる。

**履修の条件:** 「現代生命科学」は、疾患の理解の基礎となる学問である。患者の視点に立った医療が求められる現代、生命科学の在り方を静思する。ダイナミックな「広々とした生命科学」は、時代の要請であると考ええる。「広々とした生命科学」とは、「生命科学」には限りがないことをよく知っていて、新しいことにも自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力しているイメージである。「深くて簡明、重くて軽妙、情熱的で冷静」をモットーに、「胆力と品性」をキーワードに、時代の要請感のある授業を目的とする。

**講義概要:** 「病気」の根幹を追求しようとする「*the study of the diseased tissues*」を機軸とする。「潜在的な需要の発掘」と「問題の設定」を提示し、「生命科学に新鮮なインパクト」を与え、ダイナミックにも魅力ある「生命科学の環境」を作らねばならない。これらを通して実践的な「生命哲学」の涵養を図る。】と謳われている。

今回、若き日に学んだ『教育者の心得』としての『30年後に実現することを、明日 実現する如く語る ～ 先見性と器量の育成 ～』が鮮明に思い出された。